

自然史 かわらばん

No.1
2010.4



朱鷺色の残る羽(左)・トキの骨格標本(右)

県内産のトキとしては唯一の貴重な骨格標本です。今後、DNA解析やDDTなどの環境ホルモンの研究材料にもなる大切な標本です。

自然史資料館へ出かけよう！

開館5年目の今年から、この「自然史かわらばん」を発行することになりました。この機会に、自然史資料館がどんな施設かを、かいつまんでご紹介しましょう。「自然史」という耳慣れない言葉に戸惑う方もおいででしょうから、まず「自然史」の意味からご説明します。

■ 自然史の資料館？

日本史は日本の歴史。では自然史は自然の歴史？いえ、歴史という意味はありません。自然史は、「ナチュラルヒストリー」の直訳で、昔は「博物学」と言いました。はっきり定義できる言葉ではありませんが、複雑で多様な自然の姿を丸ごと理解しようとする学問、といったところでしょうか。もう少し具体的に言うと、生物の中へ進んでいく研究、たとえば体を切り刻んで仕組みや成分を調べることは、自然史の研究ではありません。丸ごとの生物の研究、たとえば、どんな種類がいて、どんな生き方をして、どんな道筋で進化してきたかを調べることは、自然史の研究です。地球の大地や海がどのように生まれて、どんな鉱物や岩石でできていて、時代と共にどう変わってきたかを調べるのも、自

然史の研究です。

自然史資料館は、そういう自然史についての博物館のような所です。え、よくわからん？ いっそ自然史という言葉抜きに、「自然の博物館」と考えていただいても構いません。国内外に自然博物館と自然史博物館の両方がある、意味するところは同じなのですから。

■ 石川の自然を楽しく展示

石川県にはバラエティに富んだ自然があります。加賀には、標高2,702mの白山をはじめ、何本もの川、川が作った平野、水をたたえた潟湖、長く続く砂浜海岸など、いろいろな場所があります。能登には、なだらかな丘陵、荒々しい岩礁海岸、波静かな内湾といった、加賀とは違う場所があります。クマのように大きな動物。カタクリのように美しい草花や高い木。虫眼鏡が無ければ見えない小さな虫やカビ。場所ごとにいろいろな生物が住んでいて、石川の自然は多彩です。

石川県立自然資料館には、これらの自然の姿をダイジェストした常設展示、「自然たんけん広場」を設けてあります。動植物、化石、岩石、鉱物などのたくさんのさわられる標本と、映像展示、顕微鏡観察のセットなどで、石川の多彩な自然



自然たんけん広場 石川の自然をぎゅっと圧縮

を一度に見ることができます。

常設展示の他に、短い会期の企画展示を、年に数回開催しています。毎回さまざまなテーマで、興味深い内容を楽しみながら見るすることができます。担当職員の知恵と努力の結晶を、ぜひご覧になってください。

■ 未来へ残す大事な標本

展示を制作する原動力は、調査研究で収集され、厳重に保管されている、たくさんの標本です。自然の今の姿を記録するために、当館には多数の標本が集められています。百年後にメダカが絶滅していたらと想像してください。標本が無ければ、本当にメダカがいたことさえ、後で確かめることはできません。標本さえあれば、DNAを調べられるし、標本に残った環境ホルモンから百年前の水質汚染も調べられます。きちんと作られた標本は、温度と湿度を一定に保てば、何百年もちます。標本は、測り知れない価値を持つかもしれない、未来への贈り物なのです。約20万点の植物標本、約5千点の動物標本、約2万点の化石・岩石・鉱物標本が、利用される日を待っています。

■ 四高のレトロ物理機器コレクション

自慢できる収蔵資料がもう一つあります。中谷宇吉郎や西田幾多郎などの人材を輩出した旧制第四高等学校（四高）は、明治から戦後まで石川の高等教育の中心でした。そこで授業に使われた物理実験機器が、当館に収蔵されています。レトロなデザインが面白く、理科教育の歴史を語る約1,200点のコレクションは、その時代の実験機器としては全国一の規模です。

常設展示「物理たいけん教室」には、その一部が展示されています。バンカラ学生が実験に取り組む姿を想像しながら、ご覧ください。楽しく実験できる体験コーナーもあります。

表 これまでの企画展

H18	第1回 自然史資料館の収蔵展
	第2回 自然史資料館の収蔵展 第Ⅱ部
H19	第3回 ミルク育ちの動物たち ～石川県のほ乳類～
	第4回 化石が教えてくれたこと ～氷河期の海に生きたものたち～
H20	第5回 めくるフィールドサイエンス ～発見！かくれた自然～
	第6回 じっとしてない植物の世界
H21	第7回 守ってあげたい生き物たち ～石川県の希少野生動植物～
	第8回 人とトンボ展



過去の企画展のチラシ（左：リニューアルオープン兼第5回企画展チラシ、右：第7回企画展チラシ）



四高物理機器のひとつ『天秤』
空気の重さがわかります

講座・イベント案内

5月

3日(祝)・4日(祝) バックヤードツアー(収蔵庫見学会)
10:00～11:15/館内/どなたでも/20名/4/1-4/27
5日(祝) 親子DEミュージアム
10:00～15:00/館内/幼児・保護者/申込不要

トピックス展

『トキがいたあの頃 一村本コレクションで見るトキの生活』
会期 5月10(月)～8月31(火)/会場 図書閲覧室



15日(土) はじめての植物採集会
9:30～12:30/野外/高校生以上/15名/4/15-5/5
29日(土) メダカが生まれるまでを観察しよう
10:00～12:00/館内/小4～高/20名/4/29-5/19
30日(日) 漬物で実験教室
13:00～16:00/館内/小学生/20名/4/1-5/23

6月

12日(土) 虫を捕って本格的な標本にしよう
9:30～12:30/館内・野外/小4～高/16名/5/12-6/2
26日(土) 薬用植物観察会
10:00～12:00/野外/高校生以上/30名/5/26-6/16

7月

4日(日) 大人のための植物観察会
9:30～12:30/野外/高校生以上/15名/6/4-6/24
17日(土) 小川で水の生き物をさがそう
10:00～12:00/野外/小4～高/20名/6/17-7/7

第10企画展

『ふだんは見えない骨の世界』
会期 7月17(土)～10月17(日)/会場 企画展示室



18日(日) 手羽先で骨格標本を作ろう
10:00～12:00/館内/小4～一般/20名/6/18-7/4

■ 遊んで学べる講座

「してみてラボ」は、LOOK and DO と Let's TRY の二つの意味の、自然科学の入口にふれる体験講座です。子供向けと大人向けがあって、虫を捕って標本にしたり、砂金を探したりと、盛りだくさんです。一步踏み込んだ知識を得たい大人には、「自然史講座」もあります。

他にも、企画展と連動した講座や、いつもは非公開の収蔵庫をご案内する「バックヤードツアー」、小さなお子さんが親子で遊べる「親子 DE ミュージアム」など、楽しい行事もあります。ぜひご参加ください。

金沢の中心から湯涌温泉に向かう途中、春は一面の桃の花、夏は浅野川を渡る風が心地よく、秋は里山の紅葉が美しい、そんな田園の中に当館はあります。キゴ山や戸室山にも近いので、ドライブがてら気軽にお立ち寄りください。最後に一言、自然史資料館は、自然への入口、自然の百科事典のような場所です。

(石丸信一)



開催中

第9回企画展「漬物の自然史」

期間 平成22年3月25日(木)～平成22年7月4日(日)



みなさんがふだんよく食べる漬物には、材料となる野菜や魚、発酵微生物など様々な生物がかかわっています。この企画展では、そんな漬物をめぐる生物の秘密に迫ります。「漬物」を題材にしていますが、展示の主旨は漬物そのものよりも、漬物にかかわる生物を生物学的に探ることにあります。

例えば、漬物に適した種類や地方限定の伝統野菜が漬物になっていることをご存じですか？

北陸地方には青首品種のカブが伝統野菜として多く残っていますが、これらは、ヨーロッパ型のカブの血をひいていて、寒冷な土地でも育ちます。石川県にも、昔からかぶらずしに使われてきた金沢青カブという青首の品種があります。金沢青カブは広く栽培

されている白カブとどこが違うのかなど、漬物野菜を植物学的に紹介しています。

また、石川県では猛毒をもつフグの卵巣を使った「ふぐの卵巣のぬか漬け」が有名ですが、材料のゴマフグはどんな種類なのか、フグ毒のテトロドトキシンとは何かなど、意外と知られていない地元の名物漬物の謎に迫ります。その他にも、漬物のすっぱい味をもたらす乳酸菌など、漬物に深くかかわっている微生物の性質や役割を紹介します。展示を通して、身近な漬物から見える生物の不思議を楽しんでください。



桜島ダイコン 世界一大きくなるダイコンの品種

(中野真理子)



金沢青カブ 皮が黄緑色でアクが強い



24日(土) 工作しながら骨を知ろう
10:00～12:00/館内/小4～一般/20名/6/24-7/14

25日(日) 大人のための化石講座
10:00～12:00/野外/高校生以上/20名/6/25-7/15

31日(土) みちかな植物ずかんを作ろう
9:30～12:00/館内・野外/小4～高/20名/6/30-7/21

1日(日) 手羽先で骨格標本を作ろう
10:00～12:00/館内/小4～一般/20名/7/6-7/22



7日(土) 川で魚を観察しよう
10:00～12:00/野外/小4～高/20名/7/7-7/28

8日(日) 親子DEミュージアム
10:00～15:00/館内/幼児・保護者/申込不要

15日(日) ホネブリカ(骨のレプリカ)を作ろう
10:00～12:00/館内/小4～一般/20名/7/15-8/5

21日(土) 犀川で砂金をさがそう
10:00～12:00/野外/小4～一般/20名/7/21-8/11

22日(日) 工作しながら骨を知ろう
10:00～12:00/館内/小4～一般/20名/7/22-8/12

■ 表記は、実施時間/活動場所/対象/定員/申込期間の順です。
■ 参加申込は当館へ電話でお申し込みください。
■ 詳細は当館にお問合せいただくか、当館ホームページをご覧ください。

申し込み TEL: 076-229-3450
当館 HP: <http://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>



最近の話題 『貴重な能登のトキ標本を受贈』

長くトキ保護活動に携ってこられた日本中国朱鷺保護協会名誉会長の村本義雄氏より、能登のトキの全身骨格、羽、卵の殻、糞の中から検出した魚やカエルの骨ほか餌動物の標本をご寄贈頂きました。これら標本は昭和30年代のトキの生活を探り得る貴重な資料です。また、

羽咋市近隣で保護された野鳥の剥製70種余もいただき、教材として活用する予定です。資料館では今回の受贈を記念して、トピックス展示「トキがいたあの頃 - 村本コレクションで見るトキの生活 -」を5月10日から8月31日まで開催します。

(佐野 修)



館長からのメッセージ

『自然史への理解』

ヒトは地域の自然環境の中で生きながら、機械文明や経済社会は自然の変化からヒトを護ろうとするあまり、身の回りの自然から私たちを切り離そうとしてきました。その結果私たちは、生命力や精神文化の大きな部分を失いつつあり、無気力な家畜あるいは歯車のようになろうとしているともいえます。

白山の高山から能登の海、また広い里山地帯など豊かな自然に恵まれた石川県といいますが、いつまでもその自然の中で暮らし恩恵を享受するには、その豊かさを理解し尊重しなければなりません。一方で地域の自然は、開発行為や農林漁業などと人々の意識の変化によって、見えるか見えないかにかかわらず変化をしています。

その中で地域の自然にかかわる資料や情報の蓄積はますます重要になっていると考えます。とくに青少年や子供たちにかげがえのない自然史資料と自然環境の価値を伝えることは公立資料館の重要な役割の一つです。

石川県立自然史資料館は多くの県民の支持で2006年に開設が実現し、現在は、県内の様々な自然関係団体の連合体であるNPO法人『石川県自然史センター』が管理しています。自然史資料館の使命は、資料の収集と管理、自然史に関する調査研究、そしてこれらを基礎にした自然史と自然環境に関する普及活動です。これからも自然に関心のある個人やグループ、そしてひろく県民の支持と活動の支援があってはじめて大きな役割を果たせるものです。ご理解とご支援をよろしくお願いします。

(館長 水野昭憲)

利用案内

■ 開館時間：午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

■ 入館料：無料

■ 休館日：12月29日～1月3日

■ 駐車場：完備(大型バス駐車可)

交通案内



【バスをご利用の場合】
 金沢駅東口バスターミナル3番乗場
 路線12番 湯涌温泉行乗車→鏡子口バス下車→徒歩約10分
 路線12番 北陸大学薬学部・北陸大学太陽が丘行乗車→北陸大学太陽が丘バス停下車→徒歩約10分
 金沢駅東口バスターミナル6番乗場
 路線95番 北陸大学薬学部・北陸大学太陽が丘行乗車→北陸大学太陽が丘バス停下車→徒歩約10分